

2009年 ロシア語通訳協会関西支部勉強会「神仏習合」の報告

3月6日 大阪国際交流センターにて

講師：垣内弘士氏



昨年12月25日の「ガイドについての勉強会」で「神仏習合」が話題になりました。「神道については、そもそも、日本語でも説明できない。」という会員の声にこたえて、歴史に造詣の深い垣内さんに講義をお願いすることになりました。講義を拝聴したみな感想は、失礼ながらも、まずなにより、88歳のお年で淀みなくことばがつぎからつぎへと流れ、固有名詞ひとつ、年号一つ、出てこないことがなくお話がとうとうと続くことに対する驚きの声でした。ずっと若いはずの私たち「名前が出てこないこととかしょっちゅうなのに、なぜ・・・」と。そしてまた、40ページにわたる、詳細

でわかりやすい資料。お話の中身は、言わずもがな。「これまで、頭の中でごちゃごちゃしていたことが、すっきり整理されまとまった知識となりました。」「なぜ、神社の中に寺があつたり寺の中に神社があるのかがわかりました。」と、賞賛の声が次々にあがりました。

お話の内容を簡単に紹介します。

1. 宗教統計から

2. 日本の神について

自然神。神体山信仰について。姿のない神のやどるところとしての磐座や依代を山宮という。里宮、田宮、若宮、奥宮の解説。新嘗祭、祈年祭などの意味。

祖先神のありよう。神の世界「高天原」とわれわれの世界「葦原の中つ国」、死者の行く先の一つが「根の国」、もう一つが、「葦原の中つ国」と同じ次元での「山中他界」。「山中他界観」は日本神道独特の観念である。人が死ぬと死霊が残る。死穢という穢をもつ死霊にたいし、手厚い魂祭を行うことにより、33年、50年経つと、祖霊となり、さらには、祖霊は昇華して祖先神となる。

この、自然神と祖先神が同じ場所に祀られることにより一緒になる。氏神について。

3. 神道の歴史

後に神道と呼ぶに足る実態を備えるのは、仏教伝来以後のことであった。建築技術や整理された経典とともに入ってきた仏教の目に見える優越性と、祝詞はあっても経典のない神道の柔軟性、あるいは脆弱さ。時の政治、権力とのからみ。蘇我と物部からはじまり、守護、地頭の時代、江戸時代の寺請制、そして、明治政府の神仏判然令、大正、昭和の2.26事件ごろ。戦後、マッカーサーの神道指令、1946年1月1日の天皇の人間宣言。

4. 神仏習合。

神仏習合が可能となる条件としての「本地垂迹」。「本地たる仏や菩薩が、その教を広め衆生を救うため、日本の神々の姿をとって現われた」。本来この発想は、インドの大乗仏教思想にある。「法華経」の「如来寿量品」では、時空を超越した永遠不滅の存在である仏陀(法身)が、衆生教化のための方便として、仮にわれわれの前に姿を現したのが、八十年の生涯を生きた釈迦(応身)であると説く。

5. 地方から始り中央へと進出する神仏習合。

神宮寺は 7～8 世紀に出現した。その後江戸時代に至るまで、全国殆どの有力な神社で神宮寺が創設された(しかし明治初年の神仏判然令で殆ど消滅した)。

仏教の考えでは、「神道」は六道の中の「天道」に該当し、したがって神道の神々は、不死ではなく、未だ輪廻からの解脱を約束されている訳ではなく、「神々の苦悩も当然」との考えである。神も、宿業としての神身であること自体のために、迷い苦しむ衆生の一類であり、神が苦悩するため神威が衰える。仏力によって神を救い(神もまた仏法を悦び歓迎する)神威を加えるべきであるとの神身離脱思想を基本にしている。そのため神宮寺を建設する。

神宮寺創建の推進力は、疲労した律令制度の下で苦しんでいた地方豪族である。4～6 世紀にわたって豪族間の支配再編成が繰り返された。新たな支配者が持ち込む守護神(氏神)は、在来民の祖先神ではなく、神威を十分に発揮出来ない(すなわち日本の神は地域的閉鎖性を持っている)。神祇には教義もなく理論性もない。一方新来の仏の呪法は魅力的で力強い。農民は最大の関心事たる雨乞いにおいて、仏法の呪法に魅せられたに違いない。支配上危機感をもった豪族達は、普遍的な神性と強力な布教力を有し、且つ呪力に優れ、中央も支持する仏教を受容した。

九州で力を持っていた渡来氏族の秦氏が磐井の乱(527)で没落し、大和政権から送られてきた大神比義が八幡宮を発足させ、九州の豪族宇佐氏の奉ずる日本古来の宗像三女神がそこに第二神となり、この神社が「神託」という巧妙な手段で奈良の大仏鑄造を機に中央に進出する。で、その八幡神が・・・

というところで予定していた終了時間の 5 時になってしまいました。15 分の休憩をはさんで 3 時間にわたる講義は、終わった瞬間にほうとため息のこぼれるような広く深い内容でした。

勉強会のあと、垣内さんの米寿のお祝い会をしました。ご健康と頭脳明晰さにあやかろうというわけです。「これまでもたくさんのことを教えていただきました。これからもさらに私たちにたくさんのことを教えて下さい。100 歳で勉強会の講師をしていただく際にはNHKに取材に来てもらおうと思います。」



関西支部事務局 北岡が書きました。